

赤ちゃん交流で 子どもに「気付き」

フォーラムで効果学

12月

取り組みの成果を発表する参加者＝三朝町大瀬の町総合文化ホール



鳥取県教委委託事業

の心のふれあいプロジェクト・フォーラム2009「赤ちゃんからのメッセージ」が、我々に必要なのは何か」（NPO法人未来主催、新日本海新聞社など後援）が5日、三

朝町大瀬の町総合文化ホールで開かれた。教育関係者ら約160人

が出席し、県内外で「赤ちゃん登校日」を実践している3団体の取り組みや成果を聞き、理解を深めた。

このうち、南部町法

勝寺の西伯小学校は、コミュニケーションの力を付けようと実践しており、三浦一美教諭が成果を発表した。

三浦教諭は「子どもたちは、優しさの原点に返ることができ、親への感謝の気持ちを抱いたり、親子の絆の強さを感じるなど、多くの気付きがある」と

発表。「人とのコミュニケーションを学ぶ授業を確立したい」と提案した。

この日は、東京大学名誉教授の汐見稔幸氏の講演や、平井伸治鳥取県知事、高塚人志鳥取大学医学部准教授らによるシンポジウムも行われた。